

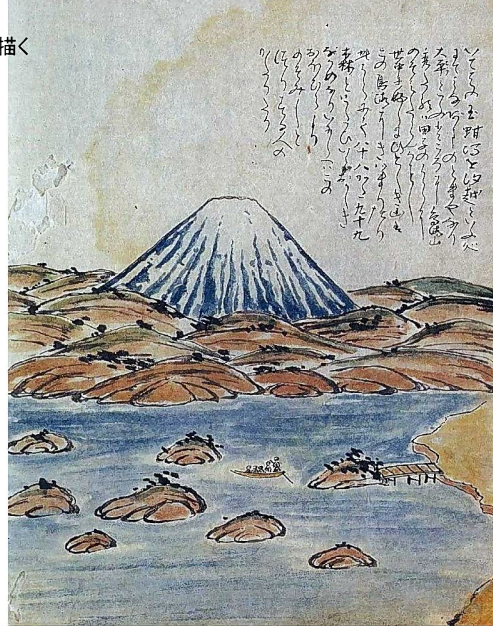




芭蕉が訪れてから約100年後、
1784年9月、真澄は「象潟と鳥海山」の絵図を描く
その20年後、象潟大地震が発生

出羽の国・象潟の塩越という所は、皆漁師の家である。太平という所で鳥海山が秀でて見えるのは、富士山を田子の浦から眺めたのと同じである。
世の中に富士山と似た山が多いが、この鳥海山が一番である。
この浦の光景は「八十八潟、九十九森」と称賛され、たいそう趣がある。

菅江真澄が描いた象潟と鳥海山



「災い」その②…地震

噴火 1801～1804年

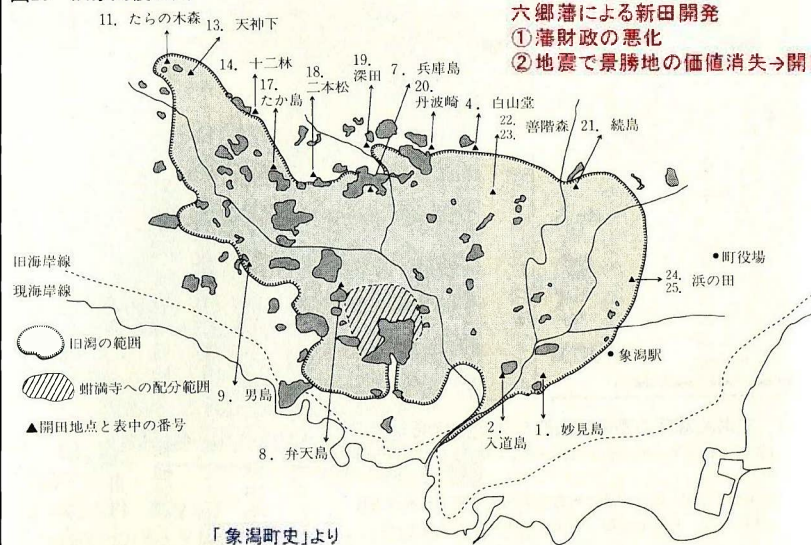
1804年6月4日、象潟地震が発生。九十九島は、約2mも隆起し、陸地と化す。

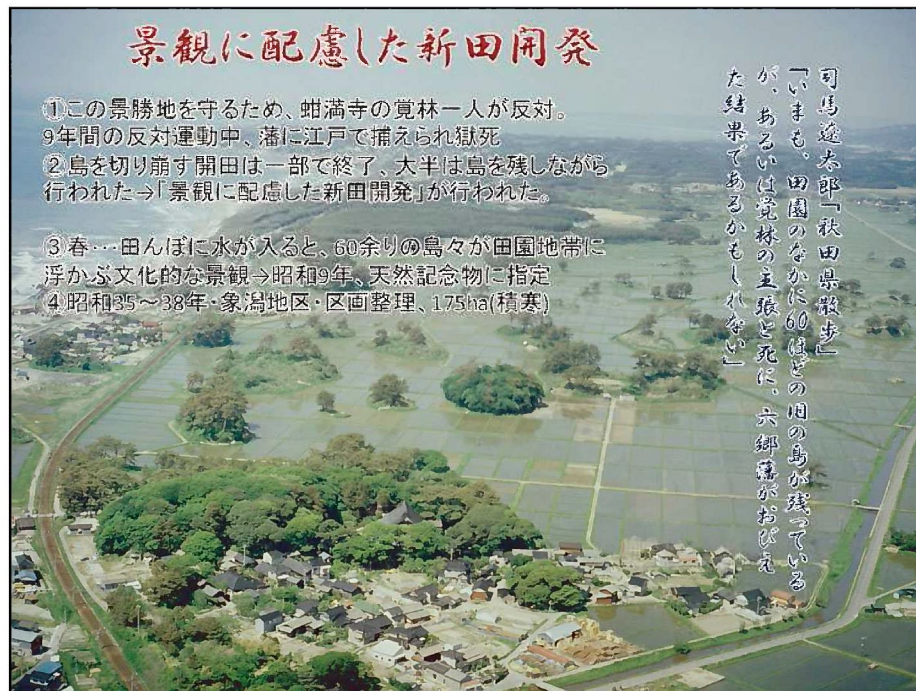
六郷藩による新田開発

①藩財政の悪化

②地震で景勝地の価値消失→開田を計画

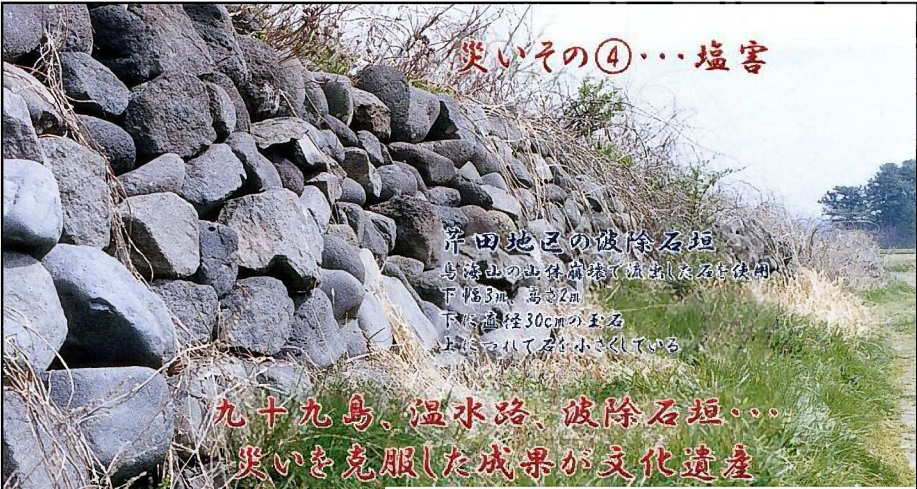
図20 旧象潟復元図







災いその④・・・塩害



芹田地区の波除石垣
 鳥海山の山崩落で流出した石を使用
 下幅3m、高さ2m
 下部は直径30cmの玉石
 上部は平らな石を小さくしている

九十九島、温水路、波除石垣・・・
災いを克服した成果が文化遺産

「佐賀県史」普及版より

①塩霧(しよぎり)・・・波浪の波しぶきで起きる塩害

②1791年、1833年の被害が大きい

③稲作を塩害から防止するため、波除石垣を構築→H9、国指定文化財(江戸時代の産業遺産)

遺構分布図





国：延年チョウクライロ舞



国：本海獅子舞番楽



国：上郷のサエの神行事



坂戸番楽



島海日之舞



伊勢居地番楽

災いの多い地域だからこそ民俗文化の宝庫

屋敷番楽

伊勢居地番楽

①災害・疫病の除去、病気の治癒→無病息災

②早魃→雨乞いの祈禱

③冷水害→五穀豊穡



